

(1) 事業名称等

- 【事業名称】 歴史的建造物修復技術講習会とその社会実装
【実施団体】 社団法人 富山県建築士会
【事業経費】 638,000 円
【事業領域】 文化財建造物修理に関わる技術の普及, 文化財保護の新たな体制づくり

(2) 事業の目的

富山県内には重要伝統的建造物群保存地区として南砺市相倉ならびに菅沼と高岡市山町筋と金屋町が選定されている。その他県内には滑川、八尾、新湊をはじめ多くの歴史ある街並みや建造物が残っている地域がある。しかしその中には調査されることもなく、十分にその価値を見出されないまま放置され、取り壊されていくものも多くあるのが現状である。また適切な修復への知識や技術をもたない業者の手により改造され、価値を損なっていく建物も多い。以上のことから歴史的建造物の修復設計や維持管理に必要な知識と技能を身につけるための講習会を開催し、必要な知識や技術力をもった人材を育成することを目的として講習会をおこなった。この事業は3年計画でおこなっており今年度はその2年目となる。

昨年度に引続き建物の調査法の研修が中心であるが、今年度は講習会を通して得たものを地域に還元できる機会をもつことも目的とし、地域のまちづくりに参加した。

(3) 事業活動の内容

□事業① 講習会

- 名称：歴史的建造物修復技術講習会Ⅱ
- 会場：旧津野家住宅（富山県高岡市吉久）
- 内容：歴史的建造物修復設計のための調査手法の講習（H23年度より継続）

■スケジュール：

- | | | |
|-----|----------------------------------|---------|
| 1回目 | 平成24年7月21日（土）9：00～12：00 | 参加者15名 |
| | グループに分かれて断面、床および小屋伏せのスケッチをする | |
| | H24年度からの参加者は2階平面、展開のスケッチをする | |
| 2回目 | 平成24年7月28日（土） | 参加者21名 |
| | 9：00～12：00 伝統工法の耐震診断、耐震補強についての講義 | 講師：後藤正美 |
| | 13：00～16：00 耐震補強の方法についての講義 実測作業 | 講師：武藤清秀 |
| 3回目 | 平成24年9月1日（土）9：00～12：00 | 参加者21名 |
| | 瓦の材料、施工方法についての講義 瓦の調査方法の研修 | 講師：長田和明 |

- 4回目 平成24年9月15日(土) 9:00~12:00
 建具、表具の材料、施工方法についての講義
 建具の調査方法についての研修
 参加者17名
 講師:永嶋 明
 講師:前 正実
- 5回目 平成24年10月6日(土) 9:00~12:00
 畳の材料、施工方法についての講義
 畳の調査方法の研修
 参加者14名
 講師:立野克典
- 6回目 平成24年10月28日(日) 9:00~12:00
 左官材料、施工方法についての講義
 左官壁の修理方法、調査方法についての研修
 参加者16名
 講師:藤田秀紀
- 7回目 平成24年11月18日(日) 9:00~16:00
 木部の架構の調査方法についての研修
 参加者12名
 講師:安田正太郎
- 8回目 平成24年12月15日(土)
 9:00~12:00 木部の修理方法についての講義
 木部の破損調査と記録の仕方についての研修
 13:00~16:00 改修工事現場見学 金沢東山
 参加者19名
 講師:橋本浩司
 講師:武藤清秀
- 9回目 平成24年12月22日(土) 9:00~12:00
 立面の実測
 講習会の総括と報告書作成についての説明
 平成25年2月2日(土) 13:30~17:30
 文化財の調査と修復についての講義
 勝興寺修復現場見学 高岡市伏木
 参加者13名
 講師:武藤清秀
 参加者22名
 講師:賀古唯義

平成25年2月10日(日)2班に分かれて作成した報告書の提出

□事業② まちづくりへの参加協力

■名称:吉久地区建物調査

■会場:高岡市吉久

■内容:吉久地区ではまちづくりを行っていくためにこの地区の建物調査を行う必要性が生じている。地区の吉久町家まちづくり研究会だけでは調査をおこなうノウハウが不足しているため、研究会との協働作業として建物調査への協力をおこなった。調査票の作成、調査マニュアルの作成、建築的判断への助言を建築士がおこない、研究会が継続して調査をすることができる体制を整えた。

■スケジュール:

- 1回目 平成25年1月26日(土) 9:00~12:00 建築士会6名 研究会4名
 2回目 平成25年2月2日(土) 9:00~12:00 建築士会6名 研究会4名

□事業③ まちづくりへの参加協力

■名称：まちづくりワークショップ

■会場：高岡市吉久公民館

■共催：富山大学芸術文化学部

■協力：吉久町家まちづくり研究会 吉久まちづくり推進協議会

■内容：高岡市は平成23年に歴史まちづくり法に基づく、いわゆる「歴史都市」となり、吉久地区はその歴史文化保存活用の重点区域のひとつになった。そのため地区に住む人にもまちづくりに興味をもってもらい、住民が主体となったまちづくりをすすめていけるような方向性を築くことが必要となった。そこで住民が率直に意見を出し合えるワークショップをおこなうこととし、地元出身の大田氏（京都工芸繊維大学特任准教授）に高岡および吉久を再発見できる内容の講演をしてもらい、その後与えられた課題に対して住民同士の意見交換をおこなった。この事業は富山大学芸術文化学部と共催でおこなった。

■スケジュール：平成25年2月17日13:30～16:30 建築士会6名 富山大学4名
参加者40名

□事業の運営（①～③）：富山県建築士会壮年部伝統建築小委員会

□協力団体：

- ・（社）金沢職人大学校・・・研修内容、手法に関する助言と講師の紹介（①）
- ・LLP金沢町家・・・講師の派遣（①）
- ・吉久町家まちづくり研究会・・・研修会場の準備、協働作業（①～③）
- ・富山大学芸術文化学部・・・ワークショップの共催（③）

（4）事業の成果

□講習会の成果品として昨年度に引続き研修結果といえる旧津野家住宅の調査報告書を作成した。2班を編成し、講習期間終了後に各人が持ち帰って作業をおこなった。報告書の作成は研修内容を各自が確認できる機会となり、研修を充実させる有効な方法であった。今年度は前回できなかった部分の調査や積算もおこない、より現実的な調査をおこなった。

□講習会各回の講師からは非常に具体的で現実的な指導を受けることができた。職人の講師からは各回材料や技法のことなど興味深い話を聞くことができ、特に会場の町家を具体例として研修をおこなったので講師の話が理解しやすかった。

□講習会会期中の10月に建築士会が受注した金屋町実測調査のうち一つを講習会参加者有志で担当した（6名）。作業を通じてチーム意識が持てたこと、作図のマニュアル化のきっかけをつくれたことは大きな成果であった。

□地域のまちづくり運動に具体的にかかわることができた。そのひとつは建物調査をおこなったことで、一連の調査に関する作業を通して建築士が得意とする内容、地元住民自身でおこなうことのできる内容が明確になり協働作業のスタイルが見えてきた。

□ワークショップではまちづくりを考える上で真実性も大切な要素であることを住民に伝えることができた。またそのために我々の講習会の研修が行われていること、その研修が地域のまちづくりに役立っていくことを伝えることができた。一方参加していた行政職員やまちづくりコンサルタントには従来の集会では出てこない住民の発言を聞いてもらえる機会となった。

(5) 事業実施後の課題

□講習会に若い設計士や女性に昨年度より多く参加してもらうことができ、幅広い層の人に興味をもってもらえるようになったと言えると思う。一方講習日に土曜日が多かったためか施工者には参加してもらえなかったのは残念であった。昨年度も施工者の土曜日参加が難しく欠席が多かった。講習会の日程の組み方に課題が残る。

□地域のまちづくりと継続してかかわっていける関係を築く仕組みをたてる必要があると感じた。建築士会の会員は各地域にいるのでそういう会員を軸に地域とつながっていくことが必要と考える。

□新組織の活動が今年度の事業の中ではおこなうことができなかった。また行政への働きかけも十分おこなうことができず、目標の達成に至らなかった。今後引続いて取組んでいく課題である。

(6) 今後の展開

□富山県建築士会では今まで歴史的な町並みや建築物に対して建築士会としての統一した取組みは行われてこなかった。今後県内の町並み、建物の保存・活用を進めていくためには組織全体としての活動がなくてはならないと考える。昨年度、今年度とこの事業を建築士会内の小組織の有志で運営をしていた。次年度は働きかけの成果として新しい委員会として活動ができることとなり、大きく前進できたと思う。今後は建築士会全体からの協力を受けられるのではないかと期待している。

□新しい委員会では新しく始まる富山でのヘリテージマネージャー制度の作成と運営も活動内容としている。昨年度、今年度の講習会での研修や今年度のまちづくり運動との関りをその活動に活かして行きたいと思う。

□第3期の講習会は吉久地区とは別の地域での開催を予定している。その地域のまちなみ保存団体等と連携した活動をもおこなう。また3カ年の講習会のまとめとして、建築士のための歴史的建造物調査手引き書の作成をおこなうことを目標としている。